

リード芦屋新聞

発行元

リードあしや

体験で学ぶ避難生活

少しでも快適に 学生が工夫紹介

11月2日に芦屋市民活動センター（リードあしや）で、災害時対応セミナーの第4回講座「災害時の住『芦屋の防災対策と避難所を楽しくするワークショップ』」が開催された。

セミナーでは、兵庫県内の大学生らで結成された「117KOBEBほうさい委員会」のメンバーがワークショップを展開し、災害時、ダンボールや新聞紙などを利用して避難所での生活を少しでも過ごしやすい環境にするための知識や技術を伝えた。

ダンボールを利用した「仕切り」や「ベッド」を

組み立てるワークなどがあ
り、実際に体験を行った参
加者は「簡単にできると思
っていたが、実際にやって

みると上手く組み立てられ
なかつたり、ダンボールを
適切に切ることができなか
った。災害が発生する前に

事前に体験しておくことは非常に大切だと改めて感じることができた」と感想を述べた。

今回のセミナーのリーダーである委員長の王さんは「必ず発生するであろう大きな自然災害に向けて、今自分達ができる最大の防災・減災活動に努めていきたい」とセミナーを締めくくった。今後の117KOBEBほうさい委員会の活動に期待が高まる。

（菊地健也）



防災倉庫42カ所に 救助用具、発電機など備蓄

セミナーでは、芦屋市の公園などに設けられている防災倉庫についての説明もあった。

防災倉庫は、公園や小学校など42カ所にあり、場所は芦屋市防災情報マップに掲示。マップは毎年、配布されているほか、インターネットでも確認できる。倉庫にはハンマーやジャッキ、つるはしといった救助用資機材、布担架、段ボールベッド、簡易トイレなど

が備蓄。家庭向けのカセットボンベが使える発電機もある。

倉庫のカギは自主防災会役員らが管理しており、これらの備品は訓練で活用することもできるという。

芦屋市防災安全課の藤岡厚貴さんは、阪神・淡路大震災で救助された人のうち、大半が近隣住民に助けられたとのデータを示し、「災害時には共助が重要となる」と強調した。

